



石川町合併70周年記念



やっぱり、家族っていいね。

家族の日
家族の週間

このコンクールは、こども家庭庁の
「家族の日」「家族の週間」の趣旨
に賛同しています。

令和7年度 家族への手紙コンクール最優秀賞作品集



石川町青少年健全育成推進協議会

石川町教育委員会

後援：福島民報社、福島民友新聞社、町民ニュース社、夕刊いしかわ新聞社、石川町内の郵便局



【目次】

最優秀賞作品

「パパへ」

石川小学校 一年 安藤 心桜 1

「お父さんへ」

石川小学校 二年 乾 朱里 2

「お母さんへの愛」

石川小学校 三年 矢内 暖乃 3

「ばあばいつもありがとう」

石川小学校 四年 矢吹 福也 4

「父から学んだ事」

石川小学校 五年 長澤 優 5

「お父さんはぼくのお手本だ」

石川小学校 六年 永沼 大地 8

「おばあちゃんありがとう」

石川中学校 一年 岩下 優空 10

「お母さんのおかげで」

石川中学校 二年 角田 紬 13

「本当の優しさ」

石川中学校 三年 福田 悠水 16

優秀賞・優良賞・郵便局長賞入賞者

19

【家族への手紙コンクールの趣旨】

生きとし生けるものは、親から子へ、そして子から孫へ、古来からその尊い命が受け継がれ、現在に至っています。子どもたちが、命の大切さを見つめ、家族愛を育むことを目的として、「家族への手紙コンクール」を実施しました。

パパへ

石川小学校 一年 安藤 心桜

いつもおべんとうのたまごやきをつくってくれてありがとう。どんなにおそくかえってきてても、つぎのひがおべんとうのひは、はやおきをしてたまごやきをつくってくれるね。いつもあまくてふわふわのいいたまごやきをつくってくれて、ありがとう。ママに、「パパのたまごやきはなんでもいいの」ってきいたら、かくしあじに、あいじょうがいっぱいはいつていつてたよ。わたしもパパみたいにおいしいたまごやきをつくってパパにたべてもらいたいな。そのときは、かくしあじにあいじょうもいっぱいいいれるからね。

お父さんへ

石川小学校 二年

乾 朱里

お父さん、ぐんま県でのおしごとおつかれさま。
つぎはいつ帰ってくるの。

毎日いっしょにいらなくてさびしいけど、休
みの日は帰ってきてくれるからうれしいよ。レゴ
でいっしょにあそんだり、おべんきを教えた
りしてくれてありがとう。とくに、お父さんと二
人つきりでだがしやさんに行くのが大すき。お兄
ちゃんとお姉ちゃんがよろこぶかおを思いうかべ
ながらおかしをかって食べるのが楽しいんだ。そ
れに、お父さんが本を読んでもくると、ぐっすり
ねむれるんだ。だから、早く帰ってきてね。

お母さんへの愛

石川小学校 三年

矢内 暖乃

お母さん、いつもかんしゃの気持ちでいっぱいだよ。お母さんは元気でやさしくて、がんばりやさん。でもわたしはときどきお母さんのことが心ばいになるよ。それはお母さんの元気がなくて落ちこんでいるとき。そんな時、わたしはお母さんに元気をあげたくなるよ。

お母さんは仕事がいそがしいときに元気がなくなるよね。あんまり話をしなくなるからすぐに分かるよ。わたしは心ばいになって、「どうしたの。」と声をかけると「仕事がいそがしいんだ。」って言うもんね。でも、おてつだいでおふろあらいつとか、お母さんと料理とかをすると、少し元気になってくれるのがうれしいんだ。これからまたくさんおてつだいしたり、はげましたりするね。お母さんには、しあわせになってほしいと思っているよ。ときどきこの手紙を読んでね。これからもいっしょに楽しくすごそうね。いつもありがとう。

ばあばいつもありがとう

石川小学校 四年 矢吹 福也

ばあば、いつもおいしいご飯を作ってくれてありがとう。ぼくが学校から帰ってくると、ぼくの好きなおやつを用意して待っていてくれるから、ぼくは家に帰るのがとっても楽しみだよ。ぼくがしそジュースを飲みたいと言うと、いつもいいよって言うって作ってくれるよね。ジュースで使うしそは、家の畑のしそをきれいに洗って作っていてびっくりしたよ。ぼくが元気にすごせるように、心をこめて作ってくれているから、おいしいんだね。ばあばのおかげで毎日元気だよ。ありがとう。

ぼくは、一人でたまごやきが作れるようになったよ。ばあばの作ってくれるふわふわのたまごやきにはかなわないけど、今度ばあばのために心を込めて作るから、楽しみにしててね。

畑に植えた野菜が大きくなってきてるね。ぼくの大好きな里いもを作ってくれてありがとう。今度いっしょにしゅうかくしようね。だから、いつまでも元気なばあばでいてね。

父から学んだ事

石川小学校 五年 長澤 優

毎年「家族への手紙コンクール」のとき、僕はお母さんばかり書いていて、お父さんは、その様子をうらやましそうに見ていたので、今年はお父さんに手紙を書こうと思うよ。

お父さん、四月に参加した「さくらロードレース」は、最後までよくがんばっていたね。結果は、参加した大人の中でダントツ最下位、とちゅう歩いていたらけれど、最後まであきらめずにゴールしたがたがすごかったね。

お父さんはさくらロードレース前に、「絶対最下位だし、カッコ悪いけど、それでもいいか。」と僕に聞いてきたよね。「それでもいいよ。おうえんしているよ。」と僕は答えたよね。心からおうえんしていたし、全然かっこ悪くなかった。きつとへトへトにつかれて帰ってくると思うから、お父さんの大好きなチョコレートを買っておいたんだ。お父さんが、がんばったあかしに。

さくらロードレースのお父さんを見て、僕は三つすごいなと思ったことがあるよ。一つ目はもちろん最後までやりきったこと。自分でやると決めてやりきったことを心からそんけいするよ。二つ目は、ゴールしたあと「来年は五分タイムをちぢめて、前の人をぬかす。」と次の目標を立てていたこと。つねに前向きに考えるところが、お父さんのえらいところだね。そして三つ目は、たくさんの人がお父さんをおうえんしていたこと。満開の桜の下で「一太郎さんがんばって。」と、大きなかん声を聞いた時、僕のお父さんのせなかをみんながおしてくれているようでうれしかったし、いつの間にか僕もいっしょに走っていて「もうちょっとだよ。がんばれ。」とさけんでいたよ。

いつもお父さんは「何事も、たのしくやればいいんだよ。」と言っているよね。ロードレースは辛かったと思うけど楽しく走れたかな。

僕は今、習い事や日々の生活の中で、色々なことにちようせんしているけど、何事もまず「やっ

てみる」という性かくは、多分お父さんに似たのだと思ったよ。

来年もさくらロードレースで走るお父さん。「前の人を一人でもぬかす。」という目標に向かってあきらめずに、積極的に練習しようね。これから先、僕もお父さんのように何事にも楽しく、そして全力で何度でもトライするから、お父さんも僕をおうえんしてね。

お父さんはぼくのお手本だ

石川小学校 六年

永沼 大地

お父さん、ふだん伝えることが出来ていないぼくの気持ちを言うね。いつもハンドボールを教えてくださいありがとうございます。お父さんは子どもの頃野球をやっていて、ハンドボールはあまりしたことがないと言っていたね。でも、「球技はキャッチボールをしっかりとやられば上手くなる。」と言って、仕事から帰ってきたら、ぼくにうでの使い方や体の使い方を教えてくれたね。お父さんの球は速くて、真っ直ぐ飛んだりカーブしたりと自由自在だから、ぼくはいつもおどろかされていたよ。ぼくはいくら投げてでも、お父さんのような球を投げることはできなくて、練習をやりたくないなと思うこともあったんだ。そんな時は「今のは良い球だ。」と言って、たくさんほめてくれたね。お父さんの一言でやる気が出たよ。ありがとう。

六年生の四月に、初めての試合があったよね。試合に慣れていないぼくは、パスミスやシュート

ミスをたくさんして負けちゃったよね。あの日の夜、お父さんはぼくに、この先どうなりたいのか聞いてきたよね。ぼくが「勝ちたい。上手くなりたい。」と答えると、お父さんは「一緒にがんばるか。」と言ってくれたよね。うれしかったよ。

ぼくが目指していたのは、全国大会出場。それに向けてお父さんと色々な練習をしたね。でも、六月の試合で、勝てば全国大会に行けたけど、あと一歩足りなくて負けてしまったよね。ぼくは悔しくて、たくさん泣いた。そんなぼくに「泣いているくらいなら練習しろ。」とかつを入れてくれたね。後からお母さんから聞いた話。あまり泣かないお父さんも泣いてたんだね。うれし涙じゃなくて悔し涙を流させちゃってごめん。全国大会には行けなかったけど、次は東北大会があるよね。東北大会にはお父さんと一緒に行けるようにがんばるからこれからも練習付き合ってね。

おばあちゃんありがとう

石川中学校 一年 岩下 優空

私には、七十七才のおばあちゃんがあります。おばあちゃんと一緒に住んでいて、共働きの両親に代わって、家事や私と兄の送迎をしてくれます。お母さんはよく「おばあちゃんがいると助かるね」と言います。私もその通りだと思います。

私が小学生のときは、家事や畑をしているおばあちゃんのお手伝いをしたり、学校の出来事を話したりするのが楽しくて、おばあちゃんのそばによくいました。

しかし、中学生になってからは、部活に入部したので帰りは遅く、休日も部活や大会があつて、おばあちゃんと過ごす時間が前よりも少なくなつてしまいました。おばあちゃんが家事を一人ですていても私は、部活で疲れているからとか、宿題をする時間だからとかいつも理由をつけて、見て見ぬふりをしていました。その度に、気持ちが悪

ヤモヤします。けれど、おばあちゃんは何も言いません。おばあちゃんは、いつも家族のためにがんばってくれているのに、感謝できていませんでした。それどころか、最近は学校帰り、迎えにきてくれたおばあちゃんとけんかをしてしまいました。

あの日は、学校のテストであまりいい点数がとれず、部活でもミスが多くて少し落ちこんでいました。帰りに友達とそのことを話していて、おばあちゃんを少し待たせてしまいました。車に乗った私に、「今日はなんでおそかったの」と聞かれたけれど、友達と話したばかりでまた話すのがいやで、「おばあちゃんには関係ない」と言ってしまうました。いつもは何も言わないおばあちゃんですが、その日は帰りが遅くて心配していたようで怒らせてしまいました。その様子に気づいていたのに、私は謝ることができませんでした。車の中は空気が悪く二人とも無言でした。家に着いてからも無言でした。それなのに、おばあちゃんは、い

つも通りにおいしい夜ごはんを作ってくれて、もう笑顔でした。その姿を見たら、ますます謝れなくなってしまうました。おばあちゃんがしてくれていることがあたり前に感じていたことや家族の心配をしてくれることは、あたり前ではなくて、ありがとうございますとおばあちゃんの背中を見て気づきました。

おばあちゃんは何も言わないけれど、いつも行動や背中であえてくれている気がします。だから、これからは感謝の気持ちをもっとしっかり伝えていきたいと思いました。

「おばあちゃんいつもありがとう」

お母さんのおかげで

石川中学校 二年 角田 紬

お母さん、僕が中学生、姉ちゃんが高校生になつてから疲れてる気がする。だから僕はお母さんに謝らなければならないこと、怒りたいこと、感謝したいことがあるんだ。

謝らなければならないことは疲れている原因に僕が関係しているかもしれないということ。『ご飯だよ。』や『早く寝て。』を聞いて早く行動しなかった。真面目な話をしようとしてるのに真剣に話を聞こうとしなかった。本当にごめんね。

怒りたいことはお母さんが自分のことに気を使わないこと。僕や姉ちゃん、お父さんのことだけ見て、疲れているように見える。僕はできることはしっかりやるから、お母さんは自分の趣味をもっと楽しんでほしい。そして、辛いことはちゃんと口に出してね。無理しないでね。

感謝したいことはたくさんある。まず一番は僕のことを愛して、支えてくれること、かぜを引い

たら誰よりも心配してくれて、話を最後までよく聞いてくれて、僕にうれしいことがあったらお母さんも自分の出来事のように喜んでくれて、辛かったら助けてくれて、部活に行くとき送り迎えをしてくれて、支えてくれて、愛してくれたこと。本当にありがとう。

もう一つ。僕をここまで大きく育ててくれてありがとう。やっていいこと、悪いことを教えてくれたのはお母さん。辛いとき側にいてくれたのもお母さん。新しいことに挑戦する僕を支えてくれたのも、「いってらっしゃい。」や「おかえり。」を僕に毎日言ってくれたのも、全てお母さんだった。人に優しくすることの大切さ、「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことの大切さもお母さんが教えてくれたことだったよね。本当にありがとう。おかげでいろんな人に「元気なあいさつで素晴らしいね。」と言われたよ。ありがとう。

最後に、僕の将来の夢を否定せず考えてくれてありがとう。僕がお母さんに、スポーツを支える

仕事をやってみたいと言ったときも、その夢が少し変わった時も否定をせず、真面目に聞いて、応援してくれてありがとう。

これから僕は大学に行ったりして離ればなれになってしまうと思う。その時はさびしいけれど、お母さんが応援してくれていることを思い出して頑張るよ。お母さん、いつもありがとう。

本当の優しさ

石川中学校 三年 福田 悠水

「おばあちゃん家に行くよ。」

「今日は行けない。」そう言っただけは何回断ったかわかりません。私は、その時知りませんでした。人の命の本当の大切さ。「今日は行かない。」この言葉が「今日」ではなく永遠であり、もう戻れないこと。

おばあちゃんへ。おばあちゃんは、私が会いに行くと、いつも私の好きな牛筋の煮物を作って、笑顔で待ってくれていたね。よく考えてみると立つだけでも大変なのに私のために無理して作ってくれていたんだよね。ありがとう。でも、おばあちゃんは誰かに手料理をふるまうのが好きだったから、そんなの苦じゃないよと言う気がします。誰かのために行動できる、そんなおばあちゃんはとてもかっこよくて私の憧れだよ。

買い物に行くと「好きなものを買っていいよ。」と言ってくれたね。私は遠慮して「大丈夫。」と言

ってしまいうけど、そんな私のことも分かっっていて、「遠慮しないでいいよ。」と言ってくれたね。二人並んでおばあちゃんと買い物をする時間は私にとって特別な時間だったよ。

いつも私のことを大切にしてくれるおばあちゃん。だから、おばあちゃんが入院したと聞いた時は本当に心配したよ。入院する前、六年生になった私は、少し忙しくておばあちゃんの家に行けていませんでした。退院したら、その時絶対に会いに行こうとそう思いました。でも、その時は来ませんでした。一月一日の未明、おばあちゃんはこの世を去りました。

もう会えなくなるなんて思いませんでした。なんで、もっと大切にしなかったんだろう。なんで、あの時おばあちゃん家に行かなかったんだろう。そんな後悔しか残りません。おばあちゃんにありがとうとごめんねを言いたいよ……。

そんな暗い気持ちの私を助けてくれたのは、おばあちゃんでした。お母さんとあるそば屋に行ったとき、「二二」のそばは美味しいから、悠水にも食べさ

せてやりたいておばあちゃんが言ってたんだよ。」
私は涙が溢れてきました。おばあちゃんは私のことをずっと大切に思ってくれていたのにどうして会に行かなかったんだろうと申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。だけど、泣いてはいられないと思いました。おばあちゃんのおかげで私はやるべきことを見つけれられたよ。

私は、おばあちゃんにたくさんの幸せをもらいました。本当の優しさを知りました。だから、周りの人をもっと大切にしようと思えたよ。気づけば、私はおばあちゃんに与えてもらってばかりだね。もうおばあちゃんにその恩返しはできないけど、私もおばあちゃんみたいに周りの人を笑顔にできる人になるね。おばあちゃんの優しさを受け継いでいくね。おばあちゃん本当にありがとう。私はこれからも笑顔でいるから心配しないでね。大好きだよ。

【優秀賞入賞者】

「ぼくとばあちゃん」	石川小学校	一年	添田	陽心
「おにいちゃんへ」	石川小学校	二年	鈴木	有心
「大すきなお兄ちゃん」	石川小学校	三年	鈴木	絢仁
「お母さんありがとう」	石川小学校	四年	鈴木	感人
「ママは家族のスーパーヒーロー」	石川小学校	五年	瀬戸山	蒼翔
「二回目のお手紙」	石川小学校	六年	金澤	澄怜
「お父さんの料理にこめられた思い」	石川中学校	一年	黒澤	結衣
「日頃の感謝」	石川中学校	二年	鈴木	尊
「お父さん、お母さんへ」	石川中学校	三年	西牧	雪穂
「だいすきなパパへ」	福島県立石川高等学校	三年	古内	美羽

【優良賞入賞者】

「だいすきなおねえちゃんへ」	石川小学校	一年	満山	結菜
「おばあちゃんへ」	石川小学校	二年	鈴木	杏果
「天国のおばあちゃんに会いたいな」	石川小学校	三年	高橋	由依
「お母さんいつもありがとう」	石川小学校	四年	岡部	叶歩
「パパへ」	石川小学校	五年	薄井	玲那
「大好きなじいじばあへ」	石川小学校	六年	水野	賢裕
「私の本当の気持ち」	石川義塾中学校	一年	小川	愛
「いつもありがとう」	石川中学校	二年	佐藤	柚希
「心の中にずっといる人」	石川義塾中学校	三年	阿部	琴美
「数え切れない感謝」	学校法人石川高等学校	二年	喜藤	琴美

【郵便局長賞入賞者】

「おかあさんへ」	石川小学校	一年	郷	稟叶
「ばあばに言えなかった『ありがとう』」	石川小学校	二年	迎	和樹
「お父さんへ」	石川小学校	三年	小豆畑	琥心
「長生きしてね」	石川小学校	四年	岸浪	陽菜
「おばあちゃんいつもありがとう」	石川小学校	五年	添田	莉心
「じいじへ」	石川小学校	六年	熊谷	芽生
「お父さん、お母さんへ」	石川義塾中学校	一年	井坂	紘翔
「親への感謝」	石川義塾中学校	二年	大沼	旬
「父と母へ」	石川中学校	三年	松下	ゆめの



石川町合併70周年記念

令和7年度 家族への手紙コンクール最優秀賞作品集

石川町青少年健全育成推進協議会

石川町教育委員会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課

電話 0247-26-2566 FAX 0247-26-4992

